

兵教リポーターの弓道部 訪問記



左から、田原主将、松岡洋さん、東條さん

VISIT THE JAPANESE ARCHERY CLUB



Data
 活動場所／弓道場
 活動日／月、火、木、土
 部員数／19人
 顧問／國岡高宏、
 深川開計(神戸市弓道協会)
 設立年／昭和60(1985)年



①リポーターもちょっとだけ体験②右手にはめていけるのは「かけ」。「かけがえのない」の語源になっているのだから③左から、松本麻友さん、東條さん、田原主将、桑木将伍さん、上堀内八雲さん



和

「和」気あいあいとした空気が一変した。部員が的に向かうと、凛とした立ち姿を山奥の静寂が包み、道場に布のゆつくりと矢をつがえ、放つ。的に当たっても外れても、眉一つ動かさず、ただ繰り返し。

「的に当たるだけの競技ではないんですよ」。19人の部員を束ねる主将・田原充朗さん(3年)が教えてくれた。心を静め、身体と対話して技術を磨く。そうして「真善美の体現」を目指すことが弓道の本質だという。田原さんははにかんで続ける。「そうは言っても、当てたくなるんですよ。焦ると大方外れてしまう。分かっているんですけど…」

「良い集団であれ」を目標に掲げる部の結束は固い。部員のほぼ全員が初心者からの入部で、年次にかかわらず日々の練習の中で互いに助言し合い、切磋琢磨する。

東條祐太郎さん(3年)も大学から弓道を始め、昨年、第31回全国教育系大学弓道選手権大会で男子個人戦準優勝に輝いた。東條さんは堂々と語る。「うれしい成績を収められたのは、私一人の努力の成果ではありません。部の全員の力です」

そんな先輩を卒業生も温かく支える。部員の胸には、5月初旬に道場を訪れた現職教員として働くOBの指導が強く残っている。

「授業をより良くするために、教師には基本的なことを見直す姿勢が必要だ。放つ瞬間だけでなく、立ち居振る舞いから心を配るという点で、弓道も変わらない」。部員の多くが教員を目指している。「きつと皆の力になる」。個人的な指導の中にあつた言葉を、田原さんはすぐさま全員で共有した。

代替わりから半年。2人の新人を迎えた部は、秋の大会に向けて練習に励む。「それぞれが納得できる矢を一つでも多く放つことが恩返しになると信じて、練習あるのみです」と田原さん。黙々と自分と戦い続ける部員たちを、「心と技」と書かれた伝統の部旗が見守っていた。

今回のリポーター

星 研介さん
 ほし けんすけ

専門職学位課程
 小学校教員養成特別コース2年

